

令和3年度 事業報告

法人事業概要

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に対する不安や緊張が長期化するなかで、基本的な感染防止対策を習慣化する「マーシ園の新生活様式」を定着させながら、事業運営を行いました。利用者やご家族には、前年に引き続き、我慢の一年となりましたが、南砺市や嘱託医のご配慮により、利用者と職員全員が早期に3回のワクチン接種を終え、また、みなさんのご理解とご協力のおかげで、感染を防ぐことができました。これからも利用者の皆様が安心して生活できる感染症に強い施設づくりに努めます。

懸案の「八乙女移転新築」については、施設配置や部屋割等の基本計画を策定し、建設用地取得に向け、地元町内と調整しながら年度末には売買予約契約を締結しました。今後は、令和6年の着工に向け、建物の基本設計、敷地造成実施設計や農地転用申請など着実に進めてまいります。また、八乙女の移転までに各事業の持続可能な運営体制を構築すべく、将来を見据え、高齢化、重度化、多様化等に対応した生産活動のあり方をはじめコンパクトな組織体制を整えてまいります。

令和3年度から取り組んでいる「ローカルな総動で孤立した人と地域をつなぐ」をテーマとした休眠預金活用事業は、関係機関や地域住民を対象とした研修講演会を開催し、地域で取り組むことの大切さを学び、地域づくり協議会による「引きこもり等支援モデル事業」の実施に向け、積極的に地域に出向きました。補助事業期間は残すところ1年となりましたが、地域での研修会や組織づくり、関係機関との連携を深めながら、引きこもり等への支援のあるべき姿を検討し、積極的に取り組みます。

未だに新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、世界情勢が激動するなど目まぐるしく変化する時代ですが、当法人が目標とする将来像「選ばれる法人、利用し続けたい法人」を目指し、今後とも役職員が心を一つにして運営してまいります。

法人財務状況

令和3年度も概ね安定した経営を行うことができました。

事業活動による収支では、サービス活動増減差額は41,552千円の黒字でしたが、令和3年度障害福祉サービス報酬改定において、生活介護サービス費の基本報酬が引き下げられ、障害福祉サービス等事業収益が減少したこと等により、前年度に比べ15,208千円減少しました。

就労支援事業収益いわゆる授産製品の売り上げは19,738千円で、新型コロナウイルス感染防止用アクリル板や大口の花瓶の受注により、好調だった前年度並みの売上げを確保することができました。

施設整備の面では、八乙女の移転新築に備えて40,000千円を積み立てた他、八乙女の洗濯場を増設し、洗濯機や乾燥機を増設するなど、利用者の高齢・重度化にも対応しました。

法人全体の財産の内訳は、資産の部で現金預金等の流動資産総額462,039千円、土地、建物、備品等の固定資産総額1,123,054千円で、資産合計は1,585,093千円となっております。

負債の部は、流動負債総額64,440千円、固定負債総額13,570千円で、負債合計78,010千円となり、差し引き純資産は1,507,083千円で、前年度末比22,497千円増となりました。